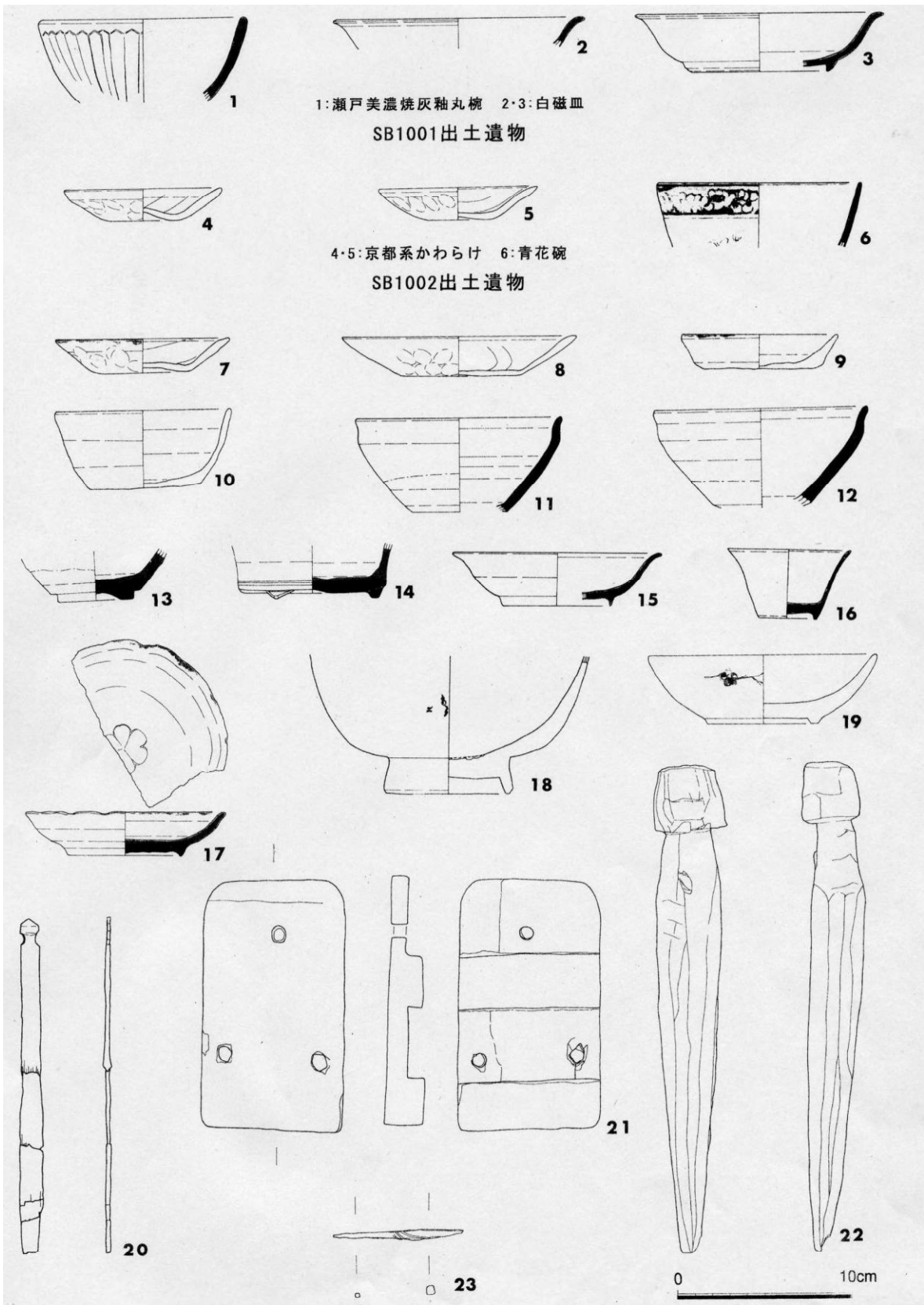


第2図 調査トレンチ及び遺構配置図



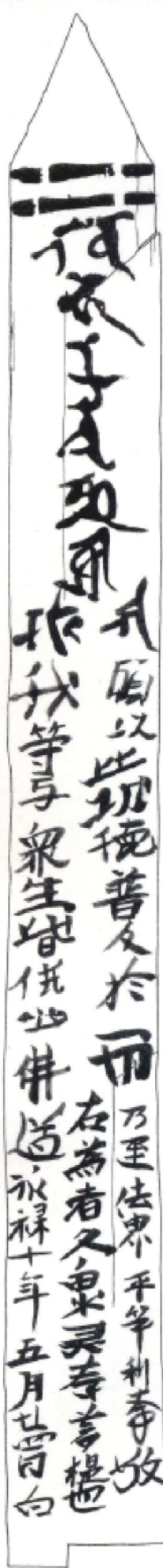
1:瀬戸美濃焼灰釉丸碗 2・3:白磁皿
SB1001出土遺物

4・5:京都系かわらけ 6:青花碗
SB1002出土遺物

7・8:京都系かわらけ 9:在地系かわらけ 10:在地系土師器杯 11~13:瀬戸美濃焼天目茶碗 14:瀬戸美濃焼香炉
15:白磁皿 16:小杯 17:瀬戸美濃焼灰釉丸皿 18・19:漆碗 20:木札 21:下駄 22:人形 23:矢じり

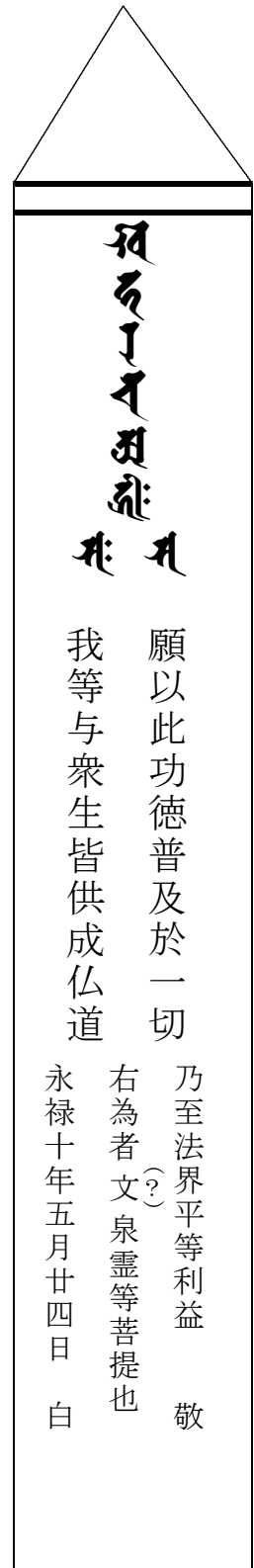
濠①出土遺物

第3図 出土遺物実測図



0 10cm

第4図 卒塔婆写真及び実測図



〔解説〕

① 願 (キヤ) 以 (カ) 一 (ラ) 我 (バ) 等 (ア) と発音し、仏教の宇宙観の五大要素である「空」「風」「火」「水」「地」をそれぞれ表しています。

② 我 (キリク) 等 (サ) 佛 (サク) と発音します。これらの梵字は阿弥陀三尊を表し、順に阿弥陀如来、観世音菩薩、勢至菩薩を示しています。

③ 死者の冥福を祈る回向文です。和文としては「願わくは此の功德を以て普く一切に及ぼし、我等と衆生と皆共に仏道を成ぜんことを」となります。自己が積んだ功德を他者に施す阿弥陀仏は、あらゆる人々を救うという願いをもって仏となりました。その本願の慈悲の力が、限らない光明として生きとし生けるものに注がれていると言われています。

④ 「乃至法界平等利益」とは、仏の世界では何人も平等に仏の恵みが与えられるという意味です。全ての者が救われますようにという願いが込められているのです。

また、「右為者文(?)泉靈等菩提也」とあり、これが「文泉」(或いは「久泉」)等の霊を供養するために作られた卒塔婆であることが分かります。この卒塔婆は経木塔婆で、年忌供養の際等に作られ、供養が終わると川や池等に流されます。つまり、永祿十年五月二十四日の法要の際に濠に流された卒塔婆なのです。

「永禄十年」って何があったの？

畿内に覇を唱えた三好長慶^{ながよし}は、永禄7(1564)年に亡くなります。重臣・松永久秀と有力家臣団「三好三人衆」に担がれた三好義継^{よしつぐ}が家督を継ぎますが、長慶ほどの力はなく、畿内には再び権力闘争の嵐が吹き荒れます。

そんな中、将軍・足利義輝^{あしかがよしてる}が三好家を追放し、京都を奪い返そうとしますが、松永久秀と三好三人衆は、逆にこの将軍・足利義輝を暗殺してしまいます。彼らは足利家の親類(=14代将軍足利義栄^{よしひで}。平島公方の家系から唯一本当に将軍になった人)を別の将軍として立てようと思いますが、「将軍殺し」である彼らへの風当たりは強く、各地で内乱も発生してうまく行きません。その結果、松永久秀と三好三人衆はケンカ状態となってしまいました。

永禄10(1567)年10月、三好三人衆は東大寺の大仏殿に陣を張りました。大仏殿を眺められる位置にあった自分の居城をとられた久秀は、それを奪い返そうと、東大寺にたてこもった敵の三好軍を襲いました。しかし東大寺は聖地。しかも大仏さんのいる大仏殿に兵を入れるなどということは、誰も予想しませんでした。三好軍もまさか、ここまでは襲ってくることはないだろうと思っていたのです。

でも久秀は違いました。将軍(足利義輝)を殺してきた久秀は、仏をもおそれなかったのです。久秀の夜討ちにあって大仏殿は焼失し、その際大仏の頭部は溶けてしまいました。まもなく両手や肩などは修復されますが、木に銅板を貼り付けただけの仮の頭部を付けた大仏は、大仏殿もない状態で100年以上の歳月を過ごすことになるのでした。

このほか永禄10年には、

8月15日 織田信長、稲葉山城の斎藤竜興^{たつおき}を倒す。岐阜と改めここに本拠を移す。

9月29日 浅井長政、信長の妹お市の方を妻に迎え入れ、信長と同盟を結ぶ。

11月 信長、「天下布武」の印を使い始める。

といったできごとが起こっています。まさにNHK大河ドラマ『功名が辻』で、現在放送されている時代なのです。



浅井長政と祝言を挙げるお市（想像）